

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400124		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター都賀(2階)		
所在地	千葉県若葉区都賀4-10-18		
自己評価作成日	平成26年3月6日	評価結果市町村受理日	平成26年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成26年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念であるその人らしさを追及し、尊厳を保ちながら自立を促し、穏やかで喜びのある生活が送れるように支援しています。何より安心・安全なサービスの提供を基本としながら1人ひとりの生活歴に合った個別ケアに努めております。重度化・高齢化している中で提携医による各居室での落ち着いた診療と必要時のご家族様への説明や訪問看護との連携などにより信頼と安心できる医療サポートを受けることができ、認知症の状態である方々の事実を受け止め感情に配慮しながら有する能力をできる限り発揮することができるよう支援しています。運営推進会議でのご家族様同士の情報共有や外出レクへの参加などご協力を得ながら、一緒に楽しむ機会も増えております。駅からも近くスーパーやドラッグストア・飲食店が多くあるので、入居者様と共に買い物など外出しています。地域の祭りへの参加や職場体験の受け入れなど地域との関わりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人らしさを追求し、尊厳を保ちながら自立を促し、穏やかで喜びのある生活が送れるように支援していきます」をホームの理念として掲げ、家族の協力も受けながら、日々丸となり取り組んでいる。特に家族の協力は活発であり、2か月に一度の運営推進会議には、多くの家族が参加しているほか、会議終了後には家族同士の座談会も実施されている。また、外出行事の際にも家族の参加があり、家族のサポートを受けながら実施する事ができている。家族の協力以外にも提携先医療機関、訪問看護との連携も良好であり、医療面のサポート体制も充実している。家族、医療機関からのサポートを受け、利用者一人ひとりが、穏やかで喜びのある生活が実現できるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で唱和している。	法人の社是のほか、「その人らしさを追求し、尊厳を保ちながら自立を促し、穏やかで喜びのある生活を送れるように支援していきます」を事業所の理念とし、事務所に掲示しているほか、職員が毎日の朝礼で唱和し、理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な買い物でスーパーや近隣の美容室へ行っている。	自治会の夏祭りへの参加や中学生の職場体験の受け入れ、事業所主催の夏祭りには、子ども会の太鼓ボランティアの来訪を受ける等、地域と交流を図っている。また、近所の理容室や美容室を利用する等、地域資源も活用している。	今後に向けては、定期的に地域のボランティアの導入を試みる等、ボランティアとの交流を通じて地域との交流がより活性化されることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際にご家族様も含めた事例などから発信することがある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告やレクリエーション活動、訪問診療報告を行っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター、近隣のグループホーム職員、家族の出席を受け2か月に一度定期的を実施している。会議を通じて家族から直接意見を頂けることで、今後の運営やサービス向上に役立つ事ができている。	今後に向けては運営推進会議に民生委員や自治会の方の出席も受け、より多くの地域情報の収集に繋がる事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	千葉市へ入居者様の空き室状況などの報告を行っている。不明な点がある時には千葉市の担当者に問い合わせをしている	市担当者と日頃から連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くように取り組んでおり、疑問点がある際には電話で確認しているほか、グループホーム連絡会に市の担当者を招聘し意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含めて身体拘束を行っていない	事業所ではE-ラーニングを導入し、職員がそれぞれ「高齢者虐待・身体拘束について」学んでいる。毎月のミーティングや朝礼時に確認し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内マニュアルやEラーニングにて学ぶ機会を持っている。また、毎年1回は必ずホーム会議にて勉強会を開催している。		

ニチイケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括センターで開催される勉強会に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様・ご家族様それぞれの抱える不安などを伺いながら、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話などで常に意見や要望を伺っている	顧客満足度調査の実施のほか、家族の来訪時、電話連絡時、ケアプランの説明時に意見、要望を聞く機会を設け、それらを運営に反映させている。また、月1回介護相談員が来訪し、利用者からの意見を収集している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員から聞いた意見や提案を管轄の支店へ伝えている	日常的に管理者やリーダーから職員に声をかける機会を設け、意見や提案を収集している。それらの意見等は全体会議やユニット会議で意見交換を実施し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力や勤務状況に応じたキャリアアップや異動制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では就業時研修・1年生研修・2年生研修フォローアップ研修・リーダー研修・ケアマネ研修への参加を推進し、グループホーム連絡会や社協など外部の研修へも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や地域包括支援センターが主催する研修や地域交流会に参加したりしている		

ニチイケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様と協力しながら入居の声かけを統一している。なるべく自宅と同じ環境で過ごすことができるよう物品配置にも気をつけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定後よりご本人様及びご家族様の不安や要望を伺っておりホームでの生活に取り入れている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接や契約時などにご本人様とご家族様からよく話を伺いながら、必要な支援を見極め、福祉用具など他のサービス利用も含めた対応にも努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食べたい食事を伺って作ったり掃除もクイックルワイパーで自室を行っていただいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪された時に近況報告をしている。またご家族様が気になることへの相談に応じている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話を変わりにかけたり、ご家族様の面会時に落ち着いてお話できるよう配慮している	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所と関係が途切れないように、友人の来訪の受け入れや美容院の継続利用、家族と一緒に墓参りに出かける等、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況を観察しながら席替えを実施している。トラブルになる前に予測しスタッフが間に入っている		

ニチイケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様がレクリエーションへ参加しに来訪されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「手伝いたいんです」という方のできることやしたい家事を見つけて実施している。	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	喫煙飲酒の習慣をホームの生活でも継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを実施しできることへの参加の機会を設けている。本人の言葉や表情を記録し状態把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	退院しホームへ戻って来られる方のご家族様、提携医、介護スタッフで話し合いの場を作り情報を共有して介護計画を立案した	ケアプラン作成においては、アセスメントで抽出した課題を踏まえ、フロア会議、担当者会議を通じ、職員、家族の意見を収集し、総合的な意見を踏まえたうえで作成している。ケアプランの達成度については定期的にモニタリングを行い、進捗の確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファレンスを月1回実施し本人の課題の原因を知る為焦点をしぼり言葉や表情、声かけに対する反応などを記録している。またいつもと異なることに着目し記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況の変化に応じて福祉用具や給付事業者などとの連携を図りながら、より良い支援に取り組んでいる		

ニチイケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへ買い物に出たり、床屋や美容室で好みの髪型にしてもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に説明と同意をし前かかりつけ医から診療情報提供書を受け取り連携を取っている。また初診時はなるべくご家族様に同席をお願いしている	提携先医療機関による往診が月に2回あるほか、利用者の状態に変化が生じた際には、24時間連絡が可能であり、緊急時にも迅速に対応できる体制を築いており、医療機関とは良好な関係が継続している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護の際に状態を伝え看護師に診ていただいている。看護師より医師へfaxにて報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中面会に行きご家族様や病院関係者と情報交換をしている。退院前に医療従事者とホームの生活での留意点などを話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に関わる指針の説明と同意を得ている。状態に応じ提携医とご家族様、介護スタッフで話し合いの場を作り今後医学的見地から予測できること、ご家族様の意向とホームでできることの確認を行っている	重度化や終末期に向けた方針に関しては、「重度化した場合における対応に関わる指針」において、重度化や看取りに関する指針を説明し、家族の同意を得ている。重度化を向かえた際には、担当医、家族、職員間で連携を図り対応していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内マニュアルの確認を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜勤帯を想定した防災訓練を2回行っている。職場体験で来ていた近隣の中学生も参加した	災害に備え、夜間を想定した避難訓練を年2回実施している。また水消火器を活用しての消火訓練も実施している。災害時に備え、備蓄品についても確保している。	今後に向けては、事業所周辺の水害の状況についても確認されることに期待したい。

ニチケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必ず説明と同意を得てから支援するようにしている。また笑顔になるような声かけができるようにしている。	声かけや言葉遣い、接遇については日々の申し送り、朝礼、ミーティング時に話し合いや注意を促し、利用者に対して不適切な対応につながらないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や掃除など日常生活の中で声かけし同意を得た上で参加していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一休みしたい方、手芸を行い方、家事を行いたい方それぞれに合わせて準備や支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧を好む方に介助を行ったり好きな衣類を選んで着用している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食後下膳の声かけをしている。食器拭きや盛り付けを一緒に行っている。何が食べたいかを伺ってメニューに取り入れることもある	食事に関する一連の作業では、食事の準備や後片付けでは利用者の状態を考慮し、食器拭きやテーブル拭きなどをお願いしている。食材の買い物には、近隣のスーパーまで利用者と一緒に買い物に出かけている。外食や出前等も行い食事の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を毎食チェックしている。1日の水分量目安を医師に確認し下回らないように促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣に合わせて行っている。また歯科医師指導のもと歯石の溜まりやすい方や歯周病の方に対する個別的な支援を夕食後に実施している		

ニチケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムに合わせ声かけと誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、「介護記録」内に記録し、職員間で共有している。日中は定時の声かけや誘導によりトイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後に排便が見られやすい方に声かけを続けたところ確認できるが増え下剤服用が減った。また個別に水分摂取量の指示を受け好みも考慮しながら摂取を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回は入浴することができるよう声かけ誘導を行っている。2日1回は入りたい方も希望に合わせて実施している。またなじみの石鹸を使う、入浴剤の好みを伺っている	入浴に関しては、利用者の要望や体調を踏まえ一人ひとりのタイミングに合わせて入浴できるように支援している。入浴中は職員が介助につき、事故等の発生が無いように安全面にも十分に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労が見られたときは声かけを行っている。不安や落ち着かない時は統一した声かけで混乱しないように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様ごとの薬説明書をファイルしている。また利尿剤は緑など薬局に色分けを依頼し一目で解りやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長年和裁の仕事をしてきた方に布きりをお願いしている。個別に誕生会を開きその方の好きな物を提供しお祝いをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症に注意しながら行っている。ご家族様の協力でお泊りやお墓参りなどへ出かけている。	ホーム全体で外出計画を立て、動物公園やポートタワー等に定期的に外出している。日常的にも、ホーム周辺の散歩や近隣のスーパーまでの食材の買い物など利用者の状態を考慮しながら職員と一緒に出かける事ができるよう支援している。	

ニチケアセンター都賀(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則はホーム管理となっているが個人で所持したい方はご家族様の了承を得た上で自身のお財布を持っており化粧水などを購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいとおっしゃった時に番号を押し本人に手渡している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとにレク係がリビングの装飾を季節に合わせた物に変えている。	共用の空間は利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮されており、行事や季節に合わせて装飾をし、生活感や季節感を採り入れている。また、廊下やトイレ、浴室の共用部分は清潔に保たれ、転倒の危険となるような物は放置せず、安全性にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の状況を見ながら席替えを実施している。廊下奥のスペースにソファを設置し1人で休むことができる空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の疾患や今までの家具配置をご家族様に伺いながら導線を考慮して行っている。仏壇や三面鏡などなじみのものを持参していただいている	居室内へはこれまで使い慣れた物の持ち込みが可能で、家具類の配置についても利用者・ご家族と相談の上、危険のないよう配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最近入居された方で表札やトイレ、テーブルの席に名前や場所が書いてあることが安心につながり「ここに名前があるからここに居ていいんだね」と混乱無く過ごされている		